

② スワンガンツカテーテル検査 (SwanGantz)

首または、足の付け根の静脈からスワンガンツカテーテルというカテーテルを入れていきます。DryWeight の評価、心不全の状態や程度、循環動態、心臓弁膜症・先天性心疾患の評価などができます。冠動脈造影検査と一緒にやることが多く、検査時間は 10 分程度です。(血管の蛇行などによりもっと時間がかかることもあります)

③ 左室造影検査 (LVG)

心臓の動きが悪い時や心筋梗塞後の心臓の動きの回復具合をみるときなどに、冠動脈造影検査に引き続き行います。また、心臓弁膜症の程度を評価するときにも行います。

④ 下肢動脈造影検査

間欠性跛行(長く歩くとだんだんふくらはぎが痛くなる)、足が冷えやすい、足先の色が悪い、足の傷が治りにくいといった方は、足の動脈が動脈硬化によって細くなったり詰まったりする閉塞性動脈硬化症 (ASO) を患っている可能性があります。症状から ASO が疑われた方には下肢動脈エコーをお勧めしています。下肢動脈エコー検査で ASO の可能性が高いと診断された場合には、冠動脈造影検査に引き続いて下肢動脈も撮影します。検査時間は 20 分程度です。(血管の蛇行などによりもっと時間がかかることもあります)

もし、下肢動脈に治療可能な狭いところがあった場合には引き続き治療を行います。病気の場所によっては検査とは別の場所からカテーテルを入れることもあります。

⑤ 電気生理検査

足の付け根の静脈から電極カテーテルカテーテルを入れて不整脈の程度をしらべます。不整脈の種類に応じて所要時間はかわりますが、20~60 分くらいです。検査結果によってアブレーション(不整脈のカテーテル治療)やペースメーカー植え込みが必要になる場合があります。

それぞれの患者様の病状に応じて、上記のうち必要な検査を行います。検査だけであれば、日帰りで行うことができます。治療を行った場合には、特に合併症がなければ翌日の退院となります。

カテーテル検査についてさらに詳しく知りたい方は、いつでも循環器内科にご相談ください。

まだ暑い日が続くかと思いますが、夏バテにならないようにお元気にお過ごしください。